



エピソード

家でカマキリの卵を見つけて持ってきた A 児。遊びの時間も、毎日大切に卵の入った飼育ケースを持ち、様子を見ていました。興味をもった数人の子ども達も飼育ケースを覗き込み、「いつ生まれるのかな」「図鑑にカマキリってるから一緒に見ようよ」と話す姿が見られるようになりました。そしてある日、「赤ちゃん、生まれてる!」と卵からかえったカマキリの赤ちゃんを見つけた子ども達。それから毎日、カマキリの赤ちゃんを観察していました。1週間ほどたち、保育者が「赤ちゃん元気に育つか」と問いかけると、B 児が「赤ちゃんこのままだと死んじゃうかも」C 児「食べる物もないし」とカマキリの赤ちゃんを見て子ども達が話し出しました。卵を持ってきた A 児は餌を入れてあげたらいいと話しましたが、B 児が「逃がしてあげたらお母さんたちに会えるかも!」C 児が「外の方が広いと思う!」と言いました。その言葉を聞いた A 児は少し黙り込んだ後、「外に連れて行って草の所に出してあげる!」と笑顔で言いました。「大きくなってね!」とみんなでカマキリの赤ちゃんに声をかけていました。

子どもの育ちや学び

- ・生き物に興味をもち友達と一緒にみえています。
- ・命の誕生に触れ、嬉しさや喜びを感じています。
- ・子どもなりの思いや感情を言葉で伝えています。
- ・友達の話を受け入れ、カマキリの赤ちゃんを外へ出してあげようという気持ちになりました。

保育者の思い

- ・A 児はカマキリの卵に愛着をもち、毎日大切に様子を見ていました。無事に生まれるかどうか分かりませんが、命の誕生を間近で感じてほしいと思い A 児の様子を見守りました。
- ・たくさんのカマキリの赤ちゃんが生まれたことを周りの友達も一緒に喜ぶことで、嬉しさを共有してほしいと思いました。
- ・カマキリの赤ちゃんの成長のためには、どうすることがいいか、一人一人が自分なりに考えてほしいと思いました。また、自分とは違う思いや考えに気付くことができるような場になってほしいと思いました。

家庭だったら・・・

身近な生き物に興味をもつことで、生き物を大切にする気持ちや命の誕生を喜ぶことにつながっています。また、子ども達と一緒に話したり考えたりすることで、子ども達は様々な思いや方法があること気づいていくのではないのでしょうか。